

「伝えたい思い」

ある日一通のはがきが私のもとに届いた。「優しい愛に、育まれて、実りました」という言葉とともに、ほんのりと色づいたみかんが描かれている。

これは、祖母が送ってくれた絵はがきだ。この絵はがきを見たとき、多分私のことを言っているのだろうと思った。私は家族に沢山の愛情をもらい育てられた。その中でも、祖母にはとても可愛がってもらった記憶がある。

祖母からの便りは、年に4回ほど送られてくる。季節を感じさせる絵と祖母の優しい詩が、高校生になり、目の前のことで精一杯になっている私の心にゆとりを与えてくれる。またお礼の電話をしたついでに、祖母と他愛もない話をするのは私にとってかけがえのない時間だ。

今までで一番印象に残っている便りは、3歳の誕生日のときのものだ。

「彩乃ちゃんお誕生日おめでとうございます。貴女が生まれた三年前のことを思い出しました。病院廻りをして苦しんだこと、貴女をなぐさめる言葉が見つからず、元気がなく長崎に帰った貴女のお母さんのことを思い、毎日心配していましたよ。でも今は貴女の笑顔を見るだけで、元気をもらいます。とても可愛い彩乃ちゃん、大切に育ててもらってくださいね。」

私は生まれつき右耳の聴覚がない。祖母は検査を受けるため多くの病院に通っていた母を励ますためにこの手紙を書き、将来大きくなったときに読んでもらおうと思っていたのだろう。この手紙を初めて見つけたとき、涙が止まらなかった。母に宛てたものなのに、まるで今の私のために書いてくれた手紙のように感じ、不思議な気持ちになった。今、私は片方の聴覚がないことを不便だと思っても、辛いとは感じない。

いつか祖母に伝えよう。「私は大丈夫。おばあちゃん、ずっと私のことを心配してくれてありがとう。」